

# 検査当日の注意事項 (患者様用)

患者氏名： \_\_\_\_\_

※紹介元の御施設様にお願い致します。該当する検査・指示項目に☑を付けて患者様へお渡してください。

## <予定されている検査>

- 単純CT     造影CT     単純MRI     造影MRI     MRCP

## <来院時の準備など>

### CT (全員対象)

当日は紹介状を含む提出書類一式を忘れずにご持参ください。

ペースメーカー、植込み型除細動器 (ICD) を装着されている方は、ペースメーカー手帳、ICD手帳も忘れずにご持参ください。

検査着に着替えて頂くことが有ります。また、ヘアピンやアクセサリ、カイロ等は外していただくことが有ります。

### MRI (全員対象)

当日は紹介状を含む提出書類一式を忘れずにご持参ください。

検査時は検査着に着替え、ヘアピンやアクセサリ、シップなどは外していただきます。なお濃い化粧なども取っていただくことがありますので、なるべく軽めにしておいてください。

また、入れ歯や補聴器も外していただきます。

### 造影CT・造影MRIを予定されている方への追加事項

検査の説明時に渡された造影検査に関する説明・問診・同意書の一式 (4頁) を持参してください。

## <来院時間>

- 単純検査 (単純CT、単純MRI、MRCP) を受けられる方は、開始時間の **30分前までに来院** してください。
- 造影検査 (造影CT、造影MRI) を受けられる方は、開始時間の **1時間前までに来院** してください。
- その他の指示がある方 ( )

## <当日の食事、飲水>

- 食事、飲水の制限は、特にありません。(腹部領域の検査とMRCPを除く、すべての単純検査)

- 検査前3時間以上の絶食をお願いします。水、白湯の飲水は可能です。  
(すべての造影検査と腹部領域の単純検査)

- 検査前6時間以上の絶食、**3時間以上の絶飲水**をお願いします。(MRCPのみ)

絶飲食では、食べ物・飲み物全てが口に出来ません。MRCPという検査では胃の中身や尿が作られる様子も写るので検査の邪魔になります。また食後すぐは胆嚢が縮んでしまうため、膨らむまで時間が必要です。長時間の絶飲食は非常にきついことですがご理解とご協力をお願い致します。

## <当日の内服薬>

- 通常通り服用してください。
- 服用を止めるお薬が有ります。止めるお薬 ( )
- ビグアナイド系の糖尿病薬は、検査2日前から服用を止めてください。(造影CTの場合のみ)  
止めるお薬 ( )

連絡先： 医療法人社団高邦会 高木病院 0944-87-0001 (代表)

## 説明資料抜粋 (紹介元医療機関様用)

### < 検査当日の食事・水分制限について >

検査種類	腹部～骨盤領域の 単純CT・MRI	すべての造影CT・MRI	MRCP (胆のう・膵臓)	その他の単純CT・MRI
食事	3時間前より絶食	3時間前より絶食	6時間前より絶食	制限なし
水分	3時間前より 水・白湯のみ可	3時間前より 水・白湯のみ可	3時間前より絶飲	制限なし
理由	胆のう収縮や腸管蠕動が 診断の支障になるため	副作用で嘔吐した時 に窒息を防ぐため	胆のう収縮や、腸管・ 尿路内の液体が診断の 支障になるため	

### < 検査当日の食事・水分制限について >

- 造影CTの場合
  - ・ ビグアノイド系糖尿病薬
  - ・ 腎毒性のある薬剤
 これらの薬は服用を止めてください
- 上記以外すべての検査
  - ・ 通常通り服用してください。

### < 造影剤禁忌早見表 >

		造影CT	造影MRI	対 応
喘息歴・造影剤アレルギー		×	×	→代替検査の検討 ①アナフィラキシー・ショックの危険
重篤な甲状腺疾患 (コントロール不良の機能亢進状態)		×	○	→代替検査の検討 (CT) ②甲状腺中毒症の危険
腎機能障害	eGFR(ml/分/1.73m <sup>2</sup> ) 45以上	○	○	→解毒性のある併用薬剤：一時中止 ※状態不良の患者様の場合は、 検査前後に輸液を考慮することがあります
	eGFR(ml/分/1.73m <sup>2</sup> ) 45>～≧30	△	△	
	eGFR(ml/分/1.73m <sup>2</sup> ) 30未満	×	×	③造影剤腎症の危険 ④腎性全身性線維症の危険 ⑤残腎機能の悪化
	透析中	○ (～△)	×	⑤
ビグアノイド系糖尿病薬		△	○	→検査時～検査後48時間の休薬 (CT) ⑥乳酸アシドーシスの危険

上記のほかに、造影CTができない疾患：褐色細胞腫、テタニー、重症筋無力症

## CT 検査の医療被ばくに関する説明書

### □ CT 検査の必要性について (正当化)

CT は身体内の断面像を撮像する検査で、病気の発見や診断、治療方針の決定などに対して重要な情報を得ることができます。しかし、放射線を用いるため少なからず放射線による被ばくを受けます。従って、検査を行うことで得られる医療情報の必要性(利益)が、被ばくによる不利益より十分に大きいと判断される場合に実施します。検査時間は撮像部位や病気の種類によって異なり約 10~20 分ですが、実際に X 線を照射している時間は数十秒です。病状に応じて造影剤を使用する場合や、追加の検査あるいは繰り返し検査する場合があります。

### □ 線量の最適化について

放射線検査全てにおいて、検査内容や患者さんの体格に合わせて、正しく診断できる画質を担保した条件下で検査を行わなければなりません。被ばくを減らすことばかりに注視し検査から得られる情報を損なうような検査を行えば、無駄な被ばくとなってしまいます。当院では、法令や関係学会のガイドライン(診断参考レベル)をもとに、各々の検査において目的に応じた最適な条件で検査を行い、また様々な被ばく低減技術を利用し、被ばく量の低減に努めています。

### □ 被ばく線量と被ばくによる影響について

放射線による影響として発がんや不妊などが報告されていますが、受けた線量により影響は異なります。放射線は無害ではありませんが、一般的には 100 ミリシーベルト (mSv) 以下の放射線被ばくによる影響はほとんどないと考えられており、発がんのリスクにおいても食事やストレスなど放射線以外の因子によるものと区別できません。通常の CT 検査による被ばく線量は 5~60mSv です。検査する部位や方法で異なりますが、100mSv を超えることはまずありません。また、定期的な CT 検査をおすすめすることがありますが、複数回の CT 検査を受けた場合でもその影響が蓄積することはなく、過去の線量を合計して影響を考慮する必要はありません。

### CT 検査でのおおよその被ばく線量 (単位: mSv)

体重 50~70kg

検査部位	ガイドライン	当院	検査部位	ガイドライン	当院
頭部 (1 回撮影)	2.8	2.8	腹部~骨盤 (1 回撮影)	13.2	13.8
胸部 (1 回撮影)	7.1	7.6	冠動脈	18.2	16.5
胸部~骨盤 (1 回撮影)	18.0	19.2			

シーベルト (Sv) とは: 人が受ける放射線被ばくの影響を評価するための線量単位。  
Sv の 1/1000 がミリシーベルト (mSv) となります

### 身の回りの放射線 自然・人工放射線からの被ばく線量

